

教育広報

# いるま

第43号

平成18年3月

題字：教育長 石 田 宣 雄  
編集：教育広報いるま編集委員会  
発行：入間市教育委員会学校教育課  
電話 04-2964-1111 (内4145)



## チャボ

藤沢小学校 二年

赤<sup>あか</sup>松<sup>まつ</sup>ともひろ

チャボって

ふわふわ。

まくらみたいで

気持ちがいいね。

ほく

そのチャボの

ふわふわまくらで

ねたいな。

そのまくら

たくさんうっていたらいいな。

そうしたら

みんなそのまくらで

気持ちよくなれるのにな。



# 子どもたちに「生きる力」を ……「教育に関する三つの達成目標」への取組……

埼玉県では、「生きる力」を育む教育をいっそう推進するため、小・中学校の子どもたちを対象に、「学力」「規律ある態度」「体力」の三つの分野について、それぞれの学年で確実に身につけさせたい基礎的・基本的な内容を取りまとめました。これが「教育に関する三つの達成目標」です。

## 学力育成についての取組

「教育に関する三つの達成目標」に示された内容に基づいて、授業の充実を目指しています。国語では、子どもたちが読書を通してたくさん本に親しむように「朝の読書タイム」を設定し取り組んでいます。「国語タイム」では、プリント類を使って漢字を練習したりいろいろな教材を音読したりして学習したことが身につくようにしています。

地域のみなさんに協力をお願いしています。

本年度から各学校がこの目標達成に向けて取り組んでいます。次に入間市内の小・中学校での実践についてご紹介します。

## 小学校での取組

黒須小学校では、「教育に関する三つの達成目標」を本年度の重点課題として位置づけ、取り組んでいます。今まで取り組んできた教育活動を基に「学力」「規律ある態度」「体力」の三分野の部会を設け、研究を推進しています。また、効果的な実施に向け、ご家庭や



算数の少人数指導

す。さらに、ご家庭での協力をお願いして、子どもの音読を毎日聞いて確認していただく「音読カード」も活用しています。



自分のペースでステップ学習ドリル

算数では、少人数指導の充実を中心に授業改善に努めています。さらに、学習したことの定着を図るために「計算タイム」を設けたり、ステップ学習ドリルを実施したりしています。この「ステップ学習ドリル」は、廊下に設置した棚に入っている計算プリントを、自由に持っていき、自分の力に合わせて取り

## 黒須っ子 よい子の約束12章 (中学年) ふりかえりカード

●よくできた ○だいたいできた △もうすこし

	黒須っ子	よい子の約束	日 (金)
1	登校時刻を守ります。		
2	授業の始まる時刻を守ります。		
3	くつ箱のくつのかかとをそろえます。		
4	つくえやロッカー、教室の整理整頓をします。		
5	相手の顔を見て、元気にあいさつします。		
6	はっきり「はい」と、返事をします。		
7	「です。」「ます。」を、ていねいに言います。		
8	「ありがとう。」「ごめんなさい。」を、率直に言います。		
9	授業の前に学習用具を用意し、めあてを持って学習します。		
10	先生や友だちの話をしっかり聞き、発表します。		
11	人の集まる所では、静かにして話をしっかり聞きます。		
12	そうじ用具を正しく使って、そうじをします。		
○の数の合計 (○を2、△を1を数えて一週間の合計の数をかく。)			

組むことができるようになっていきます。これにより、自分から進んで問題に取り組もうとする子どもが増えてきました。

## 規律ある態度への取組

「黒須っ子 よい子の約束十章」という目標をもとに、毎週金曜日子どもたちが自分自身を振り返り、評価しています。これにより、一週間の反省し、次週への目標を持って生活する習慣が身につくようになりました。

元気なあいさつが交わせるように、職員とPTAのみなさんと協力して、毎朝、校門付近であいさつ運動も実施しています。

## 体力育成についての取組

体育の授業では子どもたちがめあてを持って自主的に取り組めるよう、各種目ごとに学習カードを作っています。

二十分休みを利用して、苦手な子どもたちを中心に逆上がり



全校で、朝マラソン

教室を行いました。その結果、七十名中四十二名が逆上がりができるようになりました。鉄棒にはたくさん子どもたちが集まるようになりました。さらに、期間を限定して朝マラソンに取り組み、体力の向上を図りました。

### 中学校での取組

東金子中学校では、「東金子中三つのステップアップトライアル」を実施しています。これは、学校・生徒・家庭を柱とし、三者が連携して目標達成を目指す試みです。生徒には目標として下記の「アクション5」を示しています。

また、目標に対して、生徒自身が自らの力で成果を上げることがを基本としています。そのため学校でさまざまな活動の場面を設定しました。その一部をご紹介します。

**① 学力育成についての取組**  
**① ステップアップタイム**  
 学ぶ力の土台となる「読む・書く」「計算」の基礎力を養うため、毎週木曜日、漢字

及び計算テストを実施しています。また、出題範囲は定期テストにも加え、家庭学習の習慣づけにもなっています。

### ② エクストラレッスン

基礎学力の定着に向けて、夏休みや定期試験前を中心に実施する学習会のことです。この「エクストラレッスン」では、生徒同士の教え合いや進んで学習に取り組む姿が多く見られました。

### ③ 朝読書・読書マイレージ

全校が水を打ったような静けさに包まれ、生徒も先生も読書に集中します。スムーズな朝のスタートを迎えると同時に読書への関心や表現力も高まっています。学校では、一万ページ



朝の読書

(読書マイレージ) 読了した生徒に、認定証を朝会で授与しています。その結果、図書室の利用者が増え本好きの生徒も増えています。

### 規律ある態度への取組

#### ① ノーチャイムスクールライフ

本校では、時計を全教室・廊下に設置しています。チャイムを鳴らさず、時計を見ながら行動し、時間を守ることの大切さをさまざまな場所でも伝えています。学級委員を中心にした着席の呼びかけも廊下に誓っています。



生徒会のあいさつ運動

#### ② 生徒会によるあいさつ運動

生徒会では、本部委員が中心となってあいさつ運動を行っています。毎週水曜日、登校時に元気な声で生徒同士が気持ちよ

いあいさつができるように取り組んでいます。校内でも進んであいさつをする生徒が増えてきました。また、生活のきまりや授業の約束等も、生徒自ら守ろうとする意識を高めるように繰り返し指導を行っています。

その中から、生徒たちが個々に選んでトレーニングできるようなシステムを考えています。

### おわりに

「教育に関する三つの達成目標」をよりよく進めるためには、学校だけでなく、家庭と地域と一体となった取組が必要です。

### 体力育成についての取組

#### ① 新体力テストの活用

四月に実施した新体力テストの結果から、生徒たちは自分の体力を理解します。その後、自分の弱点を克服するためのトレーニングを実施しています。

#### ② 体力補強に向けて

今後は、授業・部活動・体育的行事を通して体力補強のためのトレーニングメニューを作り、

「教育に関する三つの達成目標」をよりよく進めるためには、学校だけでなく、家庭と地域と一体となった取組が必要です。

家庭や地域の皆さんには、さまざまな機会をとらえて、実施の趣旨や取組状況などを伝えていきます。家庭学習への取組や規律ある態度については、家庭の協力も必要となります。今後、ご理解とご協力をお願いいたします。

<b>東金子中学校</b>	
ステップアップトリアル(生徒の取組)	
<b>【学力アクション5】</b>	
1	授業準備 100%
2	予習 100%
3	授業の取組 100%
4	復習 100%
5	提出物 100%
<b>【生活向上アクション5】</b>	
1	時間を守ろう
2	進んであいさつ、返事はしっかり
3	正しい言葉遣い、思いやりのある言葉遣いをしよう
4	身だしなみを正し、整理整頓に心がけよう
5	自分の責任を果たそう
<b>【体力向上アクション5】</b>	
1	授業で体力向上に取り組もう
2	スポーツ活動に進んで参加しよう
3	進んで身体を動かそう
4	早寝早起きに心がけよう
5	好き嫌いをなくし、三度の食事を残さず食べよう

### 楽しさと実体験を自信に

藤沢南小学校長 奥原 進

#### 骨太人間教育

竹の子がいっぱい採れる竹林。トカゲやカエル、ヘビもときどき出没するビオトープ。井戸からくみ上げられた地下水は小川を流れ、池に注いでいます。懐かしい手押しポンプもあります。

井戸水は、ミニ水田にも流れます。今年の五年生は、八キログラムの稲を収穫しました。

さくらんぼや桃など実のなる木も多く、小鳥がついばみに来ます。さくらんぼは子どもたちにも人気です。

こんな楽しい環境の中で、南っ子はのびのびと生活しています。



朝のあいさつ

#### 食農教育の推進

そのため、全教師が授業を見せ合い、指導法の研究に努めています。

種をまき、育て、収穫し、食べるまでの体験活動は、豊かな心と健康な体をつくりまします。

南小では、夏野菜や茶、シイタケ、根菜、綿花、落花生、麦など多彩な作物を育てています。収穫物は、給食で利用したり自分たちで調理したりします。子どもたちは、世話をしている作物にも育てられているのです。



落花生の収穫

### 特色ある「体験活動」

狭山小学校長 川畑 和也

#### 狭山小ふるさと祭り

本校の特色ある活動の一つに「狭山小ふるさと祭り」での体験活動があります。

この祭りでは、全校児童による生活科・総合的な学習の時間の発表や昔の遊び体験、三・四年生による餅づくりやうどんづくり体験、五・六年生によるソーラン節演舞と、盛りだくさんの活動が行われています。

餅づくりやうどんづくり体験は、PTAや地域の方々の指導で行っています。今年も子どもたちは、慣れない手つきながらも、楽しそうに取り組んでいました。そして昼食時には、全校でこれらを味わいました。

また、地域の方々の指導を受けながら、子どもたちは、ペーゴマ、

けん玉、お手玉、あやとりといった昔なつかしい遊びを存分に楽しむことができました。

この日の体験は、小学校での思い出としていつまでも子どもたちの心に残るでしょう。



うどんづくり体験

#### 小麦づくり

本校には、地域の方からお借りしている畑があり、全学年がその畑を利用して、たくさんのお麦を栽培しています。その一つに、市内でも珍しい小麦づくりがあります。

十月には、この小麦を石臼を使って粉にし、学習ポランティアのお母さん方と一緒に、お菓子づくりをしました。自分たちの育てた小麦でつくったお菓子の味は格別だったようです。



小麦づくり

紹介  
こちらです

藤沢南小学校  
★

# おらが金子中学校

金子中学校長 磯谷 淳一

本校は、入間市から西へ、東京の青梅市に向かう広大な茶畑の中に位置し、開校六十周年を迎える歴史ある中学校です。また、隣に小学校、近くに支所・公民館・図書館が存在し、まさに金子の中心で、地域の人の中心で、「おらが金子中学校」の思いは強いです。実際、多くの方が金子中学校の卒業生で、皆知り合いです。学校への協力者も多く、総合的な学習の時間では、金子中ならではの授業を展開しています。

## 三つの達成目標

埼玉県「教育に関する三つの達成目標」を、本年度本校の重点目標として取り組んでいます。その達成率を向上させるために日々の活動を見直しました。内容として、①学力で



朝のあいさつ運動

は、授業内での基礎的・基本的内容の定着。漢字博士・数学博士認定試験の実施と長期休業における補習や宿題の充実。②規律のある態度では、朝のあいさつ運動をPTA・保護者・学校職員が一体となり年間計画を作成して実施。

③体力では、スポーツテスト等で、本校生徒の実態を把握し、重点をおいての指導。少しづつではありませんが、それらの成果を数値化し、取組の目標としています。

## 特色ある総合的な学習の時間

本校の総合的な学習の時間の特色として、地域の長寿会の方との「まごころ交流会」があります。実施内容は、①ゲートボール②将棋③お手玉④うどん打ち⑤むかしの玩具⑥縄な⑦魚をさばくの七コースに分かれています。長寿会の指導のもとで体験活動を行い、毎年交流を深めています。職員も参加し、技術を向上させています。その後、その内容を劇で表現し、パワーポイントで発表しています。この交流は、笑顔で学ぶ「生き方指導」にもつながっています。



「まごころ交流会」(縄な)

## 豊かな自然の中で自己実現を目指す教育

武蔵中学校長 関口 俊征

本校の周辺には、春は花、初夏は若葉、晩秋は紅葉と四季をとおりて心を和ませてくれる桜の大きさが何本もあります。本校の歴史を守ってきたこの桜は、本校の象徴であると同時に、地域の教育の場を象徴するものでもあります。生徒は四季を守りながら地域の学舎に通っています。

## 豊かな心を育む一人一鉢菊づくり

本校の特色ある教育活動の一つに、長い歴史を誇る、全校一斉に取り組む「一人一鉢菊づくり」があります。この教育活動は、菊の挿し芽から始まり、菊が開花するまで、責任を持って請け負った世話をしているというものです。この活動は、生物を慈しみ育む心と、



一人一鉢菊づくり

## 円滑な人間関係を築く縦割り行事

本校では、一年生から三年生までの生徒間のより円滑な人間関係を築き、さらには自主的活動を醸成していくという視点から、縦割



縦割りの体育祭

りの体育祭を実施しています。全校生徒を三つの団に分けて取り組むこの行事では、上級生は、下級生を指導する場面で、リーダーシップを発揮しています。また、下級生は、上級生から武蔵中学校のさまざまな伝統を引き継いでいます。この縦割り活動は、体育祭の後日に行われる合唱祭など、他の行事・活動にも生かされています。これらの行事や活動をとおして、円滑な人間関係の輪が大きく広がっていくことが、何よりも貴重であると考えています。

## 学校

今回の学校は



金子中学校 ★ 武蔵  
狭山小学校 ★

# 学校図書館の充実を目指して

## ボランティアの活動と共に

平成十五年度より市内小・中学校では、学校図書館のデータベース化を行ってきました。

現在はコンピュータで、貸し出し・返却、図書の登録・破棄・蔵書点検等の作業が可能になっています。

また、これらの作業や読み聞かせ等で、協力して頂くボランティアを導入している学校が多くあります。

十月には、第一回「学校図書館ボランティア連絡協議会」を開催し、四十一名の参加がありました。ここでは各校で活躍させているボランティア活動の様子を紹介しています。

### 西武小学校の活動

平成十二年度よりボランティア活動を始め、現在、図書ボランティア二十九名、読み聞かせボランティア十五名で活動しています。「図書ボランティア」は月々金曜日の二十分休みから四時間目まで本の貸し出し・返却、本の整理や修理、掲示物の作成、西武分館からの団体貸し出しを行っています。



会議風景

「読み聞かせボランティア」は月・水曜日の二十分休みに活動し、毎年十二月のロング昼休みに布芝居をする「お楽しみ会」を開いています。



パソコンでの貸し出し操作

日誌を通じ図書主任やボランティア同士連絡を取り合い、子どもたちと協力して、楽しく活動しています。

### 上藤沢中学校の活動

平成十七年度より、OBを含む保護者のボランティア約二十五名で活動しています。昨年度からボランティア活動の準備を進め、コンピュータ操作の研修を受け、開館時のカウンター業務を行っています。



パソコンでの蔵書点検

夏休みには新刊図書の登録、約五千五百冊の蔵書点検という根気のいる作業にも取り組みました。日々のカウンター当番は図書委員や生徒の皆さんの普段の姿を見ることができ楽しいものです。

## 不登校対策は予防から

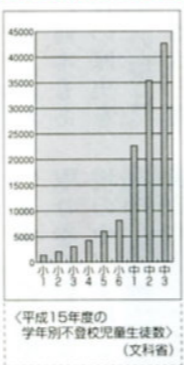
入間市では「不登校ゼロ」を目指して、総合的な対策に取り組んでいます。

その結果、不登校児童生徒は年々減少し、県内の出現率を下回る状況となりました。

しかし、まだ百人を超える児童生徒が報告されており、その減少と予防に向けてさらに取り組みが必要です。

### 一 中一ギャップの予防

小学六年生と中学一年生の不登校の数を比較すると、後者が約三倍も多くなります。このように急激に増加する中一の不登校を事前に予防することが重要な課題となっています。



### 二 早期対応の大切さ

小学校時に登校渋りなどの経験がある場合、中学校入学後比較的早い段階で不登校になるケースが多く見られます。このような場合は、入学当初

から担任、スクールカウンセラーやさわやか相談員等と緊密に連絡を取り合い、保護者と学校がチームを作って早期の対応をすることがよい結果につながっています。

### 三 子どもと絆づくりをする

中学一年生は入学後、中学校生活への不安を感じています。学校だけではなく家庭でも積極的に「絆づくりの場」をつくることが重要です。そのためには、子どもの話をよく聞いてやり、子どもと一緒に共感できる場をつくること大切です。家庭や学校の中に温かい絆があることが不登校予防に大変有効です。

### 四 学業不振から不登校へ

学業不振が不登校の原因の一つとして考えられます。中学校になると学習内容も難しくなり、生徒は学習面への不安や劣等感などを抱くこともあります。学校だけでなく家庭でも話を聞く態度や学習習慣などを身につけることは不登校を予防する上でも大切です。

### 不登校に関する相談

入間市教育研究所  
電話〇四一二九六四一八三五五

# 学校自慢

ヤッター!!

げんきなあずまっこ

入間市立あずま幼稚園

「どっこいしょ!」

どっこいしょ!

「ソーラン! ソーラン!」

十一月二十七日(日)産文センターのステージで年長組の子どもたちが、親子で手作りした太鼓を打ちならし「SOHRAN」を力いっぱい踊りました。



四月から取り組み、運動会で発表した「SOHRAN」は、子どもたちが大好きで、もつと踊りたいという声がかれました。その想いを受け止め、発表の機会を得ることができました。たくさんの人たちに応援され、感動を与えることができた子どもたちが、あずま幼稚園の一番の自慢です。

(園長 神山菊枝)

## 大学生に教わるコンピュータ

豊岡小学校

私たちの学校では、総合的な学習の時間にコンピュータを使って、修学旅行や調べ学習のまとめ(新聞づくり)、絵や写真を入れたはがきづくりなどを行っています。

授業は、駿河台大学の学生も加わって教えてくれます。困ったことや知りたいことなどがあると、

「こうするといいよ。」

と、お兄さんお姉さんたちがやさしく教えてくれるので、とてもうれしいです。絵を描いたりキーボード練習が楽しくできたりするのは、そばにいていろいろなやり方を教えてくれ、失敗してもはげましてくれるからです。大学生と一緒に勉強ができるのは、幸せだなと思います。これからもがんばりたいです。

(六年 佐藤 美結)



## 芝生で青空給食

黒須小学校

私たちの通っている学校は、入間川と霞川にはさまれていて、自然がたくさんあります。グラウンドも二つあって、広々としています。

黒須小の自慢の一つは、第二グラウンドの隣にあるサッカー場を借りて、そこで青空給食をすることです。毎年二回行っています。一回目はさわやかな五月に、クラスごとに食べました。

二回目は、桜の葉が赤くなり始めた秋に、縦割りクラスで食べました。



サッカー場は、一年中緑の芝生で、そこで食べる給食は、普段よりもおいしいです。

食べ終わると、サッカー場でみんなと遊びます。

(六年 渡辺 歩未)

(六年 広瀬 未来)

## 前代未聞!?六段ピラミッド

東町中学校

東町中学校の伝統として誇れる行事の一つが、体育祭です。練習や当日の競技を通じて、クラス・学年の団結力や絆を深めることのできる最高の場です。また、男子は組体操、女子はダンスを行い、体育祭を盛り上げています。



今年の体育祭では、三学年の有志が東町中で初めての「六段ピラミッド」に挑戦しました。練習ではなかなか息が合わず、ほとんど成功することなく当日を迎えました。本番では、二回目のチャレンジにして、ようやく成功することができました。あの時の感動は忘れません。後輩たちにも、体育祭の伝統を受け継いでほしい、更に発展させてもらえればと思います。

(三年 山地 翔)

## 努力

野田中学校

野田中学校は勉強だけでなく、部活動にも力を入れています。

先日行われた新人体育大会では、サッカー部・剣道部・女子テニス部が県大会に出場しました。一年生だけの卓球部以外は、参加した全部活動が三位以内に入賞することができました。

私たちの学校には陸上部がありません。しかし有志五十一名が部活動とは別に夏休みから駅伝練習に取り組みました。十一月に行われた入間市中学校駅伝大会男子優勝、女子三位と大健闘しました。また、奥武蔵中学校駅伝競争大会でも男子が優勝する等、今までの成果を発揮することができました。

これからも自分たちの目標に向かって努力していきたいです。

(二年 西久保有里)

(二年 吉田 瀬奈)



# はないちもんめ

## 姉妹都市ヴォルフラーツ ハウゼン市民訪問

宮寺小学校

十月二十日、入間市の姉妹都市ドイツのヴォルフラーツハウゼン市の市民十四名が宮寺小学校を訪問しました。そして、子どもたちとさまざまな交流をしました。



「はないちもんめ！」

四年生は習字と理科の学習を公開しました。訪問された方々も習字を体験し、子どもたちから拍手を受けていました。五、六年生は、合同でアトラクションを行いました。五年生はよさこいソーランの踊り、六年生は市内音楽会に向けて練習中の合唱を発表しました。一、二、三年生は、数名ずつ教室に招待し交歓給食を行いました。また、昼休みには、校庭で

いっしょに「はないちもんめ」をするなど楽しい時間を過ごしました。

国際感覚でのコミュニケーション能力を身に付けることが求められている昨今ですが、子どもたちにとってたいへんよい機会になりました。

## 北父会祭 おとうさん大活躍

藤沢北小学校

十一月二十六日(土)、待ちに待った北父会祭が開かれました。北父会は藤沢北小のお父さんたちの会ですが、しっかり者のお母さん達からまわりからガッチリ支えてくれていきます。



「お父さん大活躍！」

校長先生や教育長さんのあいさつ、そして迫力ある修武太鼓で北父会祭は開幕しました。

飛行機づくり、アクセサリーづくり、射的、ストラックアウト、キックターゲット、スタンプラリー、どのコーナーもたくさんのお客さんでした。六年生は畑でつくった無農薬の野菜を売りました。泥を落として、重さを量りビニール袋に入れたり、新聞紙で包んだり、普段したことのない作業を楽しんでいました。最後にさつまいもの参加賞を一列に並んで受け取りました。PTA会長さんの「来年もやりたいかい！」の声に、「やりたい、やりたい。」の大合唱でした。

## やったぞ！ 世界一

豊岡中学校

九月下旬、韓国で行われた「二〇〇五世界テコンドーフアランフェスティバル」において本校一年生の川嶋彩予さんがヤングジュニア女子組手バンダム級で世界一になりました。

この大会は世界三十九カ国、千五百人が参加するレベルの高い大会で、川嶋さんは型、集団演技の部にも出場し、入賞しま

した。

本人は「良い結果が出せたこと、テコンドーを通して色々な国の人がちと交流ができ、友だちになれたことがよかったです。この先もずっとテコンドーを続けていきたいと思えます。」と感想を述べていました。



組手バンダム級の表彰

## 全日本学生音楽コンクール 全国大会一位 おめでとう

野田中学校

大阪市で十一月二十六日に開かれた全日本学生音楽コンクール全国大会で、本校の三年生、福田悠一郎君がバイオリン部門中学の部で一位になりました。

日々の学校生活の中では、バイオリンのことを自分から口にすることや、積極的にその才能を見せることはありません。外で体を動かすことがとても好きで、昼休みにキャッチボールやバドミントンをしている姿をよく見かけます。

しかし、選択音楽の授業では、あつという間に、教室にあるギター全部をチューニングしてしまったり、合唱練習で、音程の微妙なズレを指摘したりと、時として絶対音感を持つ福田君の才能の片鱗を見ることができま



演奏中の福田君

卒業後は音楽高校に進学し、将来は、世界を舞台にソリストとして活躍することを目指しているとのこと。

コンクールを終え、一段落したところですが、次のコンクールへの練習がすでに始まっているそうです。

## 編集後記

弥生、三月、旅立ちの季節を迎えました。各校では、卒業に向けて趣向を凝らした活動が展開されています。今回の教育広報では、県下一斉に実施された「教育に関する三つの達成目標」の市内での実践例を紹介しました。次年度の取組の参考になれば幸いです。